

平成20年度 大和市自立支援協議会 精神部会報告

大和市自立支援協議会 精神部会

出席者（敬称略）： 大和病院（日向）、森の家（望月）、大和保健福祉事務所（土屋）、コンパス（高松）、あゆみの家（佐野）、フレッシュゾーンボイス（八賀）、あるむ（藤田）、リバーシティ大和（曲本）、松風園（山田）、自立支援センター（星野・三瓶）、障害福祉課（石田・佐川・笹岡）、サポートセンター花音（村尾・岩淵）

1. はじめに

今年度は昨年度作成したフロー図を実際に活用していく事をはじめ、並行して相談支援事業所の事例報告やピアカウンセリング研修会の開催など適宜メンバーの発案を取り入れて活動してきた。また部会であがった地域課題を少しずつ目に見える形にするため、メンバーが必要と感じているニーズと現行の社会資源をマッチング一覧表に落としとしていく作業を行うと共に、協議会の流れに乗っ取り、大和市障害福祉計画策定委員会への意見具申に反映させるよう部会としての要望がまとめられた。定例会の報告は適宜行われ、自立支援協議会の動きについてメンバーへの周知を図っている。昨年度に比べ、より意見交換のしやすい雰囲気ができている。

2. 活動内容

①事例報告

フロー図を活用するにあたり、メンバーから相談支援事業所の活動が見えないとの声が上がりがコンパスと相談支援事業所より三事例の報告がなされた。部会での事例報告の位置づけについても議論がなされたが、ケース検討というより勉強会という意味合いで行う事が確認された。

②ピアカウンセリング研修会

昨年から議論がなされていたピアカウンセリングについて、今年度はピアカウンセリングとは何かといった導入部分として、二回にわたり市内の事業所職員を対象に研修会を開催した。第1回は「精神に障害がある人の理解と支援方法」をテーマに足柄上保健福祉事務所の黒田専門福祉司を招き、第2回は「当事者活動の実際」をテーマに実際にピアカウンセラーとして活動されている方を招いて開催。課題として、市内でピアカウンセラーとなり得る人材の発掘、活動を支援する体制の整備があがってきた。また、参加者の中でも居宅介護事業所の参加が多く見られ、居宅介護事業所間の情報共有が必要とされていると感じた。

③日中活動の場について

昨年度より、精神に障害のある方の地域生活を考える上で多彩な日中活動の場が必要であるとの活発な議論がなされている。その裏付けとして、市内の作業所待機者数、退院可能者数が提示された。また現在地域活動支援センターへは、専門職員（精神保健福祉士等）による相談支援、日中の居場所作りとしてのフリースペースやプログラム活動等様々な期待が寄せ

られており、作業所の新法移行においても今後のあり方が注目されている。既存の資源のみならず新たな資源（※）として、プログラム活動などを抜きにした憩いの場が点在した方がよいという意見があった。地域活動支援センター（Ⅰ型やⅢ型）の役割の確認やボランティアなどインフォーマルな資源の積極的取り入れやそのバックアップ体制についても今後の課題となっている。

※緩やかな憩いの場をイメージし瀬谷の日中活動の場を例にとると、駅から数分の距離に民家を利用していつでも行けて横になってくつろげる場を設けている。開所中はボランティアが常駐し、利用料は1回50円で開所時間内であれば利用時間の制限はなく、飲み物や茶菓子が用意されている。

④大和市障害福祉計画策定委員会への意見具申に向けて

定例会から策定委員会に意見具申する材料として、部会でも要望をまとめておくことが確認された。要望として、訪問看護事業所や作業所数、短期入所、グループホームの充実等が挙げられ、定例会へのあげる要望を絞り込んだ。また、社会資源と各メンバーが必要と感じているニーズをすり合わせながら一覧に落とす作業を行い、足りない部分や現行の社会資源で補える部分を整理している。

⑤市内精神保健福祉施設で働く現場職員のネットワーク作り

これまで部会の取り組みとして一覧表作成などを中心に市内の資源についてみてきたが、メンバーより、形式に捉われない職員間のネットワーク作りを部会中心に広げられないかという意見があった。三月の交流会に向けて内容等を詰めている。

3. まとめ

今年度は各事業所が実際に地域でどのような機能を果たしているのか、フロー図からは読み取れない現状や課題について理解を深めた。また、今ある資源では足りない部分をいかに補うのか、フォーマルとインフォーマルの両面から協議されている。その他成果物に捉われないネットワーク作りが推進され、策定委員会への要望もまとめられた。

部会の運営も二年目を迎え、メンバーの積極的な発案により活動も活発化してきている。しかし、メンバーから未だ横のつながりが弱いとの声もあり、市内の事業所間のネットワーク強化が今後も課題となっている。部会のメンバーにはなっていないが、ボランティアグループ窓や社会福祉協議会のひまわり相談センターなど今後連携が必要と思われる事業所も幾つか挙がっている。

来年度は今年度取り組めなかった①フロー図の活用と業務への反映や見直し、②就労支援について引き続き取り組む。②就労支援については就労支援部会の準備ができ次第協働して行う。その他、③大和市の特性を活かした憩いの場についても議論を重ね、④傾聴やケアマネジメントといった相談の位置づけについても共通認識をもてるよう話し合っていく必要がある。部会運営の根底となる⑤顔の見えるネットワークを部会が中心となって市内に広げていく必要がある。

大和市障害福祉計画策定委員会に対する意見具申について

大和市障害者地域自立支援協議会精神部会の今年度の活動を通して大和市市内における精神障害者を対象とする社会資源について考えてきました。今後の地域作業所のあり方や相談支援機関のあり方、居宅事業所の課題、インフォーマルな支援についても様々な議論がなされました。その中で新しい社会資源のニーズが示され新しい支援の形として作業中心でもプログラム中心でもない場所、支援を必要とする人たちが自由に交流できるような場、ゆるやかな憩いの場の必要性が確認されました。現在でもこのような場所が作業所の機能の一部ですし地域活動支援センターの役割でもあるわけですが大和市の中では南部にそのような資源が見当たりません。精神部会として大和市障害福祉計画策定委員会に対して「大和市らしい精神障害者のための憩いの場」を市南部地域に具体的な数値目標としてご検討いただきますよう意見具申いたします。